

放送日 平成29年12月1日(金)

担当者 稲穂保育園主任保育士 駒形 淳子

おはようございます。今日から12月、残すところ1か月となった29年を振り返ると、初めての体験と判断を求められる事が次々と起きた1年でした。そして父のことをおいて語ることはできません。年明け早々に父の命を繋いでくれた方々との出会いがありました。足のむくみで倒れ動けなくなった姿を診て、病院を熟慮し救急搬送してくれた隊員。単なるむくみではなく「壊死性筋膜炎」という極めて致死率の高い病気を発見し執刀してくれた医師。別の症状が出るとこの年齢で症例がないとしながらも「諦めずに治療しましょう」と力強く言ってくれました。初めての入院で不安だった父を励まし支えてくれた看護師さん。たくさんの方に力を貰い「歩けるようになる」と目標をもちりハビリを続け、ついに自宅に歩いて帰りいつもの生活に戻ることができました。父の元気な姿にホッとし気分転換に入った店で手に取ったカップの中に「ご縁よ」の文字が刻まれていました。103歳の写真家、笹本恒子さんの言葉でした。このタイミングでこの言葉にびっくりしました。偶然と思えた出会いが巡り合う縁で結ばれていたと思うと、この深い縁に感謝しました。そして人との出会いを大切に、教諭時代の教え子さん方と卒業から60年もの間お付き合いをさせてもらってきた父の生き方を表わす言葉にも感じました。そんな父が羨ましくもあり憧れて、子どもと関わる保育士になりました。

保育園は、たくさんの親子との出会いがあります。家族と離れ過ごす子ども達には保育園のお母さんとなり、保護者の方とは一緒に子育てをしていきたいと思います。寄り添う様に心がけてきました。時代とともに生活スタイルも子育て観も変わってきていますが子どもを愛しむ親の気持ちは変わることはありません。その親心と同じ思いを持ち、出会えたご縁を大切にこれからも過ごしていきたいと思えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいたく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月4日(月)
担当者 土木事務所主査 野本 周

おはようございます。建設部土木事務所の野本です。

土木事務所で維持管理している道路構造物に関するお話しをしたいと思います。

車は、定期的に車検に出し車両に異常が無いかを確認、劣化している部品などは交換して安全の確保をしています。また、車を長持ちさせるためにオイル交換などのメンテナンスもしているかと思います。トンネルや橋梁などの道路構造物において、従来までは点検に関する法令などが定められていなかったのですが、平成24年に起きた笹子トンネルの天板崩落事故をきっかけに平成26年に5年に1回の定期点検が義務付けられました。

高度経済成長期に建造されたインフラ施設は、今では、建設後40年～50年となり老朽化しております。そのような建造物は、造り直すという選択肢もありますが、費用が高むことから寿命を延ばして長持ちさせることが重要視されています。つまり、人間と同じように健康な状態を維持するために、点検・診断・処置・記録というカルテを残し、メンテナンスサイクルを回すことが求められています。

維持管理を効率的かつ効果的に行うために管理者は、対象構造物の特性や症状などを的確に把握しなければなりません。そういった意味で土木技術者は、建造物のお医者さんと言ってもいいかもしれません。

そのようなことから、土木技術者としての知識や経験を豊富にし、スキルを高め、道路構造物の延命化に努めていきたいと思っております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月5日(火)
担当者 農政課主査 中尾 謙介

おはようございます。農政課の中尾です。

私には、4歳の息子がいます。今のところはパパが大好きだと言ってくれます。

先週末の土曜日には、幼稚園で発表会がありまして、劇や歌、踊り、楽器の演奏などを見てきたのですが、こんなこともできるようになったのかと、息子の成長に、ビデオ撮影しながら涙を流しました。

その日の夜に撮影したビデオを鑑賞したのですが、自分の鼻水をすする音もしっかりと録画され、思い出深い作品が出来上がったと自負しているところでございます。

そんな息子が昨日、先生に褒められてうれしかった話を妻にしたそうです。

その内容というのが、先日の発表会にかかわる話で、劇の中でバレリーナのようにクルクルと4回の演技があったのですが、今まで練習中では、決められた4回を、指を折って、指を見ながら数えて回っていたらしいのですが、発表会本番では、指をおらずに、指をみないで、心の中で4回数えて回ったと。

息子は4歳ながらに、カッコよく演技しようとして自分で考えてやったことだと言っており、それを先生に気づいてもらえて、褒められて、とてもうれしかったという話なんですね。これまで劇の練習の話なんかほとんどしない息子でしたけれども、このことを話してくれたということは、相当うれしかったんだと思います。

それを聞いて、改めて気づかされたのですが、頑張ったことに対して、褒められてうれしいというのは、子供も大人も一緒ですよ。

人は誰もが「褒められたい」「認められたい」「必要とされたい」、そういう欲求を持っているものだと思います。

仕事をする上でも同じことが言えると思うのですが、職場の中でも仲間同士褒め合えたり、認めあえる職場、問題や課題があった時には、みんなでそのことを考えられる職場、そういう職場で仕事ができれば、仕事に取り組む姿勢も意欲的になってくるものだと思います。

そういった職場環境を作りにも貢献することも、主査としての使命だったり、責任なのではないかと感じているところでございます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいたく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月6日(水)
担当者 業務課主査 桜庭 基人

おはようございます。水道部業務課の桜庭です。

今週の日曜日のことになりますが、芸術文化ホールにて「きたひろ笑劇場2017」が開催され、約500名の方にご来場頂き、無事終了することが出来ました。まずはご来場頂いた職員の皆さま、並びに関係者の皆さまに感謝申し上げます。

2名の新メンバーが加入し、文化課協力の元、何とか今年も成功出来たことにホッとしています。演劇に限らず、クラシックやダンスの世界でも、華やかな舞台の裏側には、裏方スタッフの存在が不可欠です。舞台転換、音響、照明、衣装にメイク、そして出演者と、それぞれの役割は違いますが「お客さまを楽しませたい」という一つの目標に向かっていくという経験は、他では味わうことが出来ないものですし、それを一緒に経験した仲間との絆は、年を追うごとに強くなっています。今回の笑劇場でも13名の出演者の裏では、ホールの舞台スタッフを含め総勢25名もの人が裏方として舞台を支えてくれました。裏方があるからこそ出演者が輝ける。言い換えれば、裏方がいなければ出演者は輝きを失ってしまいます。今回も、ステージ上が拍手に沸いているその陰では、裏方メンバー一人一人が輝いていたということを、この場を借りてお伝えさせて頂きました。

さて、行政の仕事は、言うまでもなく市民の方々が主役であり、私たちはそれを支える裏方です。裏方の仕事ぶりが主役の輝きと笑顔を生む。その為には、入念な計画と丁寧な確認、そして何より「良い人間関係」を日頃から育むことによって、私たち一人一人が裏方としての輝きを放ち続けることが大切だと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月7日(木)

担当者 小中一貫教育課主査 竹内 弘大

おはようございます。小中一貫教育課の竹内です。

二十年近く前のことです。当時、大学受験に失敗し、浪人をしていた私は、2回目となるセンター試験を目前に札幌の街をフラフラと彷徨っておりました。すると、後ろから「ちょっとちょっと、すみません。」と、うら若き女性の声に呼び止められたのです。

自分に一足早く春が来たのではないか、という純粋な期待を抱きながら振り向きますと、そこには、冬にも関わらず、白いスーツだけに身を包んだ女性が立っておりました。その女性は、私の顔を見るなり開口一番「怒っているんですか。」とのたまったのです。私は、寒いなか呼び止められて、いきなり「怒っているんですか。」と言われたことへの混乱と、今思えば無用な期待が裏切られたことへの怒りから、顔を赤らめ、無言でその場を立ち去ったのでした。それでも女性は、私の隣を歩きながら、何かを言っているようでしたが、もはや耳には雑踏の音しか入ってこず、女性は最終的に何かを伝えることをあきらめて、私の横から立ち去ったのでした。

その後、私は独りで歩きながら、怒りを静めるとともに、なぜあのような言葉を突然言われたのか思案しました。確かに、それ以前にも「何を考えているか分からない。」などと私の鋭い目つきを中心に酷評されたこと少なからずあり、外見なんて、どうしようもないではないかという自己憐憫とふてくされの気持ちがありました。

しかし、ふと立ち止まって考えてみると、浪人の身分でセンター試験が間近に迫っていたことからくるプレッシャーやイライラといった感情が知らず知らずの間に顔や態度に表れていたのではないかと、いや、その時だけでなく、これまでも何かしらのイライラや悪しき感情が顔や態度に表れていたのではないかと「気づき」に至ったのでした。

私を知る方々は、「冗談だろ?」、「嘘だろ?」と思われるでしょうが、それでも、その「気づき」をきっかけに現在まで、なるべく自分に余裕を持ち、できるだけ悪しき感情をあらわにしないよう日々、努力、努力なのであります。

そして今では、そのような「気づき」のきっかけをくれた、あのキャッチセールスにも感謝の気持ちさえ湧いてくるのであります。

このように日々の生活には、様々な「気づき」のきっかけを与えてくれる人々や何気ない事柄がたくさんあると思います。そんな素敵な「気づき」のきっかけを逃さないように、これからも感度良好で仕事をしてまいりたいと考えているところであります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいたく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月8日(金)
担当者 予防課主査 菊池 中

おはようございます。消防本部予防課査察担当主査の菊池です。

私が担当する査察業務とは、市内にある防火対象物に立入検査を行い、人命危険、火災危険及び消防法令違反等が見受けられた場合、関係者に対して是正指導を行なう仕事です。

市内には、約3000棟もの防火対象物があり、数年かけて全ての防火対象物の査察を実施します。このような是正指導を実施していくなかで、相手とトラブルになることもあり、大きなプレッシャーやストレスを感じることも度々あります。その際、私が心懸けていることは、接遇に十分注意すること、また、問題が生じたときは決して自分ひとりで解決しようとしめないことです。

査察において、法令違反している場合でも相手の話を十分聞いた上で違反状況を丁寧に説明し相手に理解していただくよう努めています。どのような状況でも親切丁寧に接遇を心がけ、決して高圧的な言動は行わないようにしています。また、それでも解決しないようであれば、問題をひとりで抱え込まず速やかに同僚や上司に相談することにしていきます。「報告」「連絡」「相談」いわゆる「ほうれんそう」という言葉があります。ありきたりな言葉ですが、これは非常に大切で、同僚や上司から問題解決へのアドバイスは勿論、問題や悩みを話すことによってストレス軽減にもなります。

心に余裕が無いと良い仕事はできません。私自身もストレスを溜めこみやすいタイプです。常に心に余裕を持ち親切丁寧に接遇を心がけましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月11日(月)

担当者 消防1課主査 河野 芳徳

おはようございます。消防署消防1課の河野です。

今日は、自分の仕事に関連した新聞記事を基に、お話をさせていただきたいと思います。

記事は、「救急車の対応に言葉の重みを痛感した」とのタイトルで始まり、投稿者が数年前に青信号の横断歩道を渡っていた時に出動中の救急車に遭遇した際、救急車を避けようとしていたところ、車のスピーカーから「その女性どけなさい」と周囲に聞こえる大音量で注意され「大変恥ずかしい思いをした」とのことでした。

この方は、最近になって再び同じような状況に遭遇し、今度は救急車のスピーカーから「ご協力感謝します」との言葉をかけられ驚いたと同時に、この言葉に大変感銘を受け、暖かい気持ちになり、これからも快く協力しようと考え、終わりには「いろいろなことに感謝をして生きて行きたい」とまで書かれていました。

この話を通じて感じたのは、人の言葉がいかに大切であるかということで、人はちょっとした言動で受ける印象が変わってしまうのだと改めて痛感させられるものでした。日常に目を向けると、横柄な態度で人と接する人や、朝から機嫌を悪そうにして人を避けるような態度で挨拶もまともにしない人などに遭遇することがあります。私自身も10代の頃などは人を寄せ付けないような態度をとることが良いことかのように振る舞い、その行動が周囲にどのような影響があるかも考えずに過ごしていた時期もあり、偉そうに言えることではありませんが、この記事を読んで、改めて自分の職責を見つめ直し、そのような言動をしても何も良いことはないのだと痛感し、今後も注意して日々の業務に励みたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月12日(火)

担当者 企画課 貝森 博樹

おはようございます。企画財政部企画課の貝森です。

突然ですが、みなさんは餅つきをしたことはありますか。したことはある人でも、最近したり、定期的にやっている、という人は少ないのではないのでしょうか。

なぜこんなことを話しているかというと、先週末、企画課職員有志とそのご家族数名で餅つきをしたからです。

そもそもなぜ、餅つきをする運びになったかというと、今週末に開催される「きたひろコンカツ Vol.9」で餅つきをメインに実施することとなったからです。

企画内容は、担当者とアイデアを出し合い、実現可能性や、シティセールスにつながるかどうか、参加料は妥当か、などの観点から総合的に判断し、決めています。

今回で9回目ということもあり、若干ネタ切れ感は否めませんが、「寒地稲作発祥の地」と無理やり絡めて、「今回は餅つきでいこう」と決めました。

企画内容を決めたはいいものの、担当職員一同、まともな餅つき経験がなく、このまま臨むにはあまりに不安だったため、予行演習として行いました。多少のハプニングはありつつも、にぎやかな雰囲気の中、無事おいしいお餅を食べることができました。

まだ筋肉痛は治りませんが、一通りの作業を把握することができたので、大変有意義な週末となりました。

さて、企画課で担当しているコンカツ事業ですが、私はこの4月から担当しています。担当者の中で私が唯一の独身ということで、最初は独身の自分が担当しているよいかと悩むこともありました。また、前回9月に実施したコンカツでは、参加者の方から「自分のコンカツはどうなんですか?」と言われる始末。その時は何も言い返せませんでした。今は企画を考えるにあたって、自分が参加するんだったらこうしてほしい、こういった気遣いがあれば嬉しいなど、独身ならではの目線を企画に盛り込める強みがあると割り切り、業務に取り組んでいます。今週末も自分のコンカツはそっちなので、参加していただく皆様にいい出会いの場を提供できるよう、しっかり準備して臨みたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいたく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月13日(水)
担当者 まちづくり担当 杉原 史惟

おはようございます。企画財政部まちづくり担当の杉原です。

私は、社会教育主事という教育専門職として、平成17年度に北広島市教育委員会に採用されました。大学でスポーツ指導を専攻していたこともあり、スポーツに関する仕事ができると思って意気揚々と北広島市に来たのですが、最初に配属されたのは芸術文化ホールでした。音楽や芸術の世界が全く分からず、毎日半ベソをかきながら仕事をしていました。しかし、そんな日々を市民団体の方、施設ボランティアの方、事業参加者の方など、多くの市民の方々に支えられ、なんとかやってくることができ、このことは今の自分にとって大きな財産となっています。

その後はスポーツ分野を中心に生涯学習活動の推進に携わってきましたが、平成26年度に市長部局である企画財政部に出向となり、現在4度目の冬を迎えています。

私が今担当している事業に、子ども夢チャレンジ応援事業があります。市内の子どもたちが、将来の夢を叶えるために「今チャレンジしたい」と考えることを、様々な方のサポートをいただきながら実現を図るというものですが、この事業に携わっていると、夢に対する子どもたちの熱い想い、そしてそれをサポートする大人たちの熱意でいちいち泣きそうになります。

今年は、落語家になりたいやんちゃな小4男子、日本酒造りに憧れるバスケット部の中2女子、宇宙開発に携わりたい受験生女子のそれぞれのチャレンジが、多くの方のサポートにより実現されました。この3人によるチャレンジ実現報告会が、来週土曜日の23日、私のかつての職場である芸術文化ホールで行われますので、皆さんもぜひお越しください。

私が高校2年生くらいまで本気で描いていたプロ野球選手になるという夢は今、プロ野球チームに関する仕事をするという形で半分くらい叶っているような気がしています。絶対無理という夢は、意外と無いのかも知れません。これからも北広島で育つ子どもたちと同じように、大きな夢を持ちながら生きていきたいと思えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月14日(木)
担当者 政策広報課 松下 琢磨

おはようございます。政策広報課主事の松下琢磨です。現在私は、統計調査と市のホームページの管理を担当しており、職員の皆様には、アクセシビリティ対応のため、コンテンツの修正を適宜お願いしているところであります。さて、本日は入庁3年目の私が、入庁からを振り返るとともに、今後の目標をお話ししたいと思います。

入庁1年目は国勢調査を担当し、周りの方から「国勢調査は大変だよ、頑張っ
てね」と言われていました。私は「まあ大丈夫だろう」などと暢気に構えていたのですが、数か月後には辛いという言葉が口にする事すら面倒になるほど追い込まれることになるのでした。1年目にして「公務員って思っていたよりも大変なんだなあ」と思い知らされるとともに、これからここで生きていくのだという覚悟を決めた1年でした。

2年目は上司が変わり、「自分で考える」ということを学んだ1年でした。1年目は自分で調べることがあまりなく、先輩方に頼りきりでした。しかし、後輩が入庁し、サポーターをやることで、「自分で考える」「自分でやる」という機会が多くなったように感じました。

そして、今年3年目を迎えました。1年目と2年目の経験を踏まえ、「3年目こそ何か形に残るものをあとに残したい」との思いで仕事をしてきました。

私はよく「松下君は見た目3年目じゃないよね。10年はいる見た目してるよね」と言われます。これからは、見た目に中身が追いつき追い越せるよう、今一度初心に立ち返って、謙虚な気持ちで市民の皆様のために働いていこうと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月15日(金)

担当者 財政課 木下 佑介

おはようございます。市役所5年目、財政課の木下です。

突然ですが、みなさんは1日1日をどのように過ごしていますか？何となく1日を過ごしてはいませんか？

今日は、私の大学時代の親友から学んだことをお話ししたいと思います。

親友の名前は「せいや」。所属していたアイスホッケー部の同期ということもあり、大学、プライベート、リンクの上とほぼ毎日一緒にいました。印象的だったのが、何をするにもいつも全力で楽しそうにしていたこと。特に部活のときはとても楽しそうで、厳しい練習の最中でも、笑顔を絶やさずリンクの上を走り回っていたのを今でもはっきりと覚えています。

そんな「せいや」が、ある日を境に大学、部活と、顔を出さなくなりました。「また、どこかでバカなことでもしてるんじゃないの？」と仲間内で話しながら、特に意識もせず、半年が経過。

その後、何事もなかったかのように、白いニット帽をかぶり、激太りした「せいや」が戻ってきました。「いやいや太りすぎでしょ」、「そもそもその帽子全然似合っただろ」と言うと照れくさそうに笑っていました。

その後も「せいや」は、ことあるごとに大学を休みがちになり、結果留年、私が先に卒業することとなり、「先に卒業するけど元気でな、勉強しろよ」、そうやって私は地元北広島市に旅立ちました。

それから2年後、先輩からの電話で「せいや」が亡くなったのを知りました。病名は「白血病」。突然学校に来なくなったのも、似合わない帽子をかぶり始めたのも、激太りしたのも、全てそのせいでした。もっと早く気付いてあげられたのでは、と今でも後悔しかありません。

大病を患っていながら、入院するのではなく、普通の生活をしたいと、大学へ通い、残り少ない時間を全力で、そして笑顔で過ごした「せいや」。

何となく毎日を過ごすことが多い私ですが、「せいや」に負けないように何事にも全力で、笑顔でこれからの人生頑張っていきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいたく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月18日(月)

担当者 都市計画課 高橋 和巳

おはようございます。都市計画課の高橋です。

私が日頃の業務の中で、気を付けていることについてお話したいと思います。

私たちは、普段の生活のあらゆる場面で接客することがあると思います。その際、相手の対応が良くなかったらどんな気持ちになりますか。面倒そうな態度、不親切な対応を受けると不快な気持ちになると思います。

逆に、すごく感じが良いとその人だけではなく、お店全体のイメージまで良く思えることがあります。

これは市役所での私たちの対応も同じことであり、私たちにとっては1日に何人も来る来庁者の1人かもしれません、中には初めて市役所に来る方もいます。

そのため、私は、北広島市役所全体が良く思ってもらえるよう、親切・丁寧な対応を日頃から心掛けています。特に、企画財政部を訪れたお客さんに対して、窓口に来ているのに誰も気が付かず待たせることのないよう気を付けています。

都市計画課を訪れるお客さんの半数以上は、不動産業者の方ですが、つい先日いつものように北広島市の用途地域について説明をした際「何か、他の市役所と違って北広島って親切だよね」と言われました。

私は、すごく嬉しい気持ちになったと同時に、他の来庁者の方にもそう思ってもらえるよう、これからも親切・丁寧な対応を心がけようと思いました。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月19日(火)

担当者 総務課 松本 泰暢

おはようございます。総務課の松本泰暢です。私は、男三人兄弟の末っ子で、めんこちょんこに育ててもらい、そのせいもあってか、おっちょこちょいで、入庁してからも思い起こせばたくさんの失敗をしてきました。現在私は、選挙事務を担当しているのですが、開票作業終了後、アナウンスを待たず、焦って、勝手に開票立会人の署名をもらいに走ろうとしたところで、当時の選管次長に止められ、ひどく怒られ、泣きそうになったことはまだ記憶に新しいところです。他にも上司や先輩にはたくさんご心配とご迷惑をおかけしてきた自分ですが、失敗にくじけず、バネとしながら、市役所にとって無くてはならない存在、市の発展に貢献できる人間に成長していきたいと思います。絶対に失敗が許されない中で、仕事をすることは大変な緊張感があり、ストレスも溜まりますが、そんな時は自分流のストレス発散方法である冷水シャワーを浴びながら乗り切っていきたいと思います。皆さんもぜひ試してみてください。

最後に、一緒に働いている総務課の皆さん、またこれから一緒に働くかもしれない市役所の諸先輩方、後輩の皆さん、危なっかしく、調子が良い私ですが今後ともよろしくお願い致します。

寝ている時間を除けば親友や恋人、家族よりも一緒にいる時間が長い職場の同僚です。その縁は深く、最も大事にしていきたい人間関係の一つです。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月20日(水)

担当者 職員課 猪野 由起子

おはようございます。職員課で臨床心理士をしております、猪野由起子です。

今年の9月に行ったストレスチェックの結果が出ました。昨年度と大きく変わった点があります。それは「職場環境」についてのストレスです。ちなみに職場環境についての質問は「職場の作業環境は良いか?」というものでした。この質問に対して「良くない」「あまり良くない」と答えた職員の数はず年度、全体の42.2%もあり、全国平均の41.6%を上回っていました。しかし、今年度の結果は17.2%と、25%も下がったのです。これは一体どうしてでしょうか?昨年と比べて大きく変わった点は新庁舎になったということです。綺麗で明るく開けた職場になったことで私たちのストレスが軽減されていることが分かりました。

しかし、これからが本当の勝負だと思っています。新しい庁舎を使いがっの良いい美しい庁舎として使い続けられるかどうかは、私たちにかかっているからです。

みなさん、ファイリングやクリアデスクは徹底されていますか?会議室やお手洗いを綺麗に使っていますか?

私自身、クリアデスクができていない日があるので、正直、難しいなと感じる部分もありますが、日ごろから整理整頓を心掛け、汚したら拭き取る、書類は片付ける、落ちているゴミは拾う、こうしたちょっとした心遣いや努力で、私たち自身のストレスを軽減させることができることを覚えておいていただきたいと思います。そして、ぜひこの機会にご自身の職場環境をもう一度見直してみてください。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月21日(木)
担当者 行政管理課 宮川 敬

おはようございます。行政管理課の宮川です。

今日は、私が趣味として嗜んでいる「クイズ」の話をしたと思います。

現在、テレビで放送されるクイズ番組の大半は芸能人を中心としたバラエティ番組となっていますが、30年ほど前には一般視聴者が参加できるクイズ番組が数多くあり、テレビ画面の向こう側で知識自慢たちが「クイズ王」を目指して競っていた時代がありました。

90年代前半を境に一般視聴者参加のクイズ番組がほぼなくなった後、サークル活動や有志の大会等で当時のように知識を競う文化は現在まで受け継がれ、バラエティ的なクイズ番組と一線を画したこのようなクイズのことは愛好家の間で「競技クイズ」とも呼ばれています。

私は、20年近く問題を出題する側、解答する側としてこの競技クイズに携わっていますが、両方に求められると感じているのが「情報の正確性」です。先日、あるテレビのクイズ番組で、世界地図上で国の場所を誤って表示してしまった、ということがありました。このように、出題する側が誤った情報から出題すれば他の問題の信頼性も疑われてしまいますし、解答する側が誤った情報を基に解答すれば間違いとなり、勝負には勝てません。

これは我々市職員の日々の業務にも通じることで、市民の皆さんには正確な情報を伝える必要があり、もし誤った情報を伝えてしまったら、市の信頼を損ねてしまうこととなります。

私は、行政職員としてはまだ未熟と感じており、日々勉強を続け、市民の皆さんに正確な情報を伝えていけるよう、精進していきたいと考えています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいたく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月22日(金)

担当者 秘書課 福田 誠

おはようございます。秘書課主査の福田です。

早いもので、今年も残すところあとわずかとなりました。年を重ねるごとに時間の流れが速くなったと感じております。

今年1年間を振り返りますと、秘書課の担当になって2年目の年ではありましたが、まだまだ余裕がなく仕事に追われる毎日だったと感じております。

今日はそんな中、今年印象に残った仕事のお話をさせていただきます。

8月に北広島市で北海道市長会の副市長会議が開催されました。各市から参加される副市長や随行職員、運転手の皆様に失礼のないようにと、いつもより緊張感を持って取り組んだ仕事でありました。会議開催に向けて色々な方と準備や打ち合わせをおこないましたが、接客の基本をはじめとする様々なことをあらためて学ぶことのできた時間でもありました。

細かい調整が多く大変なこともありましたが、秘書課の業務にとって大変重要と考えている事前準備と確認作業について再認識できた場でもあり、自分自身にとってはやりがいのあった、また良い経験になった仕事だったと感じております。

会議当日は、秘書課職員の他にも、新庁舎見学の案内、集合写真の撮影、受付けなど、たくさんの職員の方々にもご協力をいただき無事に終えることができたと感じており、大変感謝しております。

今後も色々な経験を大切に、職員として成長していきたいと考えております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月25日(月)

担当者 税務課 阿部 祐亮

おはようございます。税務課固定資産税土地担当の阿部です。

私は、入庁してから約10年が経ちますが、この間に色々な方との接点があり、付き合いのある同僚ができました。

仕事や私用の影響により年々日程を合わせる事が難しくなっていますが、会った時には仕事の話からどうでもいい話まで様々な会話をします。毎回同じような話をしたり、仕事の話が多くなったり、ふと思い返すと自分も歳をとったんだなあと気付かされます。

また、自分と同じ年代よりも少し若い世代と接する機会もあります。普段業務を行う上でなかなか気付きにくい若手職員の切実な思いを、お酒の力を少しばかり借りることで、より本音に近い言葉で聞けることは大変貴重であり、そのような思いにどう応えていくかを考えさせられる大切な機会となっています。

20代の時と比べると個々に立場や環境が変わり、歳や経験を重ねたことによる悩みや思いがあります。そういった悩みや思いを話し合い、共有できる場があることにより、ストレス発散はもちろん、互いに刺激がもらえ、自分自身のダメな所を見つめ直すことができるので感謝しています。

社会人として働いている以上、悩みやストレスの原因が職場にある方も多いと思います。古くからの友人には計り知れないものがあり、分かち合うことはできませんが、分かり合えるのは職場での環境や状況を理解している同僚であります。このような関係性を築くことは、今後の市役所生活を充実させ、業務を行う上でも間違いなくプラスになると思いますので、これからも同僚との交流を大切にしつつ、諸先輩方からの叱咤激励を真摯に受け止め、日々の業務に活かしていきたいと思えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいたく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月26日(火)

担当者 税務課 田中 加奈

おはようございます。税務課税務係の田中加奈です。私は、幼少の頃から北広島市で育ち、一度も市外に住むことなく、北広島市役所に入庁して5年目となります。

そんな私ですが、入庁する前は1年間就職浪人として過ごしていました。最初は、学生として周りと同じ時期から就職活動をしていましたが、書類選考、筆記試験、面接にことごとく落ち、気が付けば大学を卒業していました。周りから取り残されたようで自信を失い、落ち込み続ける日々でしたが、そんな私を救ってくれたのは周りの人たちでした。衝突することもありましたがいつも味方でいてくれた家族、必要以上のことを詮索せず明るく接してくれた友人たち。彼らのおかげで少しずつ立ち直ってきた頃にカフェでのアルバイトが決まり、興味を持っていた演劇のスクールにも通うなど、自分のやりたいことができるようになっていきました。そこでもたくさんの人に恵まれて、前向きに過ごし出したときに、北広島市の採用試験に合格し市役所への入庁が決まったのです。

このような経験を通して、私は、本当に周りの人に恵まれており、彼らがいて初めて今の自分がいるのだと実感しました。あの挫折がなかったらこんなにもたくさんの周りの優しさに気付けなかったかもしれないと思うと、つらかった時期も無駄ではなかったと感じています。北広島市職員となった今、これまでお世話になった人たち、職員の皆さんをはじめとした現在お世話になっている人たち、そしてこれまで私を育ててくれた北広島市とここに住む市民の皆様にも少しでも恩返しをし、よりよいまちづくりに貢献していける職員になれるよう努力していきたいと思えます。税務という仕事柄、市民の方たちにとって難しい説明をしなくてはならなかったり、ときには意向にそぐわないことを要求しなくてはいけないこともあります。仕事に慣れていくにつれて、どこか慢心していたところもあるかもしれませんが、今一度初心に戻り、謙虚な姿勢で市民の皆様にも寄り添える職員になれるよう心掛けていきたいと思えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月27日(水)

担当者 税務課 宮原 雄貴

おはようございます。総務部税務課の宮原です。

さて、私事ではございますが、先週18日の月曜日に、第一子である長女を無事家族に迎えることができました。

休暇の面など快く協力して下さった税務課の皆さま、妻の勤め先のすずらん保育園をはじめとする保育園関係者の皆さま、皆さまの協力のおかげで、人生最良の日を迎えることができました。

この場を借りて改めてお礼申し上げます。

私は、入庁6年目の職員ですが、私が業務において大切だと思っていることは、相手の立場に立って考え、行動することです。

今回、妻とともに出産を経験したことで、実際に妻が妊娠するまでは考えることのなかった常識を知り、また子供が生まれるまで知らなかった世界に気づくことができました。

これから育児の経験を重ねて行くことでその世界はさらに広がり、変化していくと思いますが、そういった一つ一つを楽しみながら自らの糧にして、相手の考えに寄り添うことができる市職員へ成長して行きたいと思います。

また、11月22日の榎田主査のスピーチで紹介された「子供は親の言うとおりにならぬ。親のやるとおりになる。」の言葉を思い出し、子供の手本になれるよう、日々精進して行こうと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成29年12月28日(木)

担当者 税務課 山田 仁史

おはようございます。税務課納税担当の山田です。

業務内容の話につきましては、昨年エクセルの人波多野主査からスピーチがありましたので省略させていただきます。

本日は、我が家の子供たちについてお話ししたいと思います。

私は、小学校4年生から野球を始め現在も市役所野球部の監督、少年野球のコーチと30年以上飽きもなく野球を続けています。

その姿を見てか小学6年生の娘と小学4年生の息子も少年野球チームに所属し野球をやっています。親的にもできれば野球をやってくれたら嬉しいなあとは思っていましたが2人とも3年前に自分からやってみたいと言ってくれて本当に嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

息子は、小さい頃、喘息持ちで激しい運動をすると咳が止まらないことがありました。今ではすっかり良くなりました。成長により体が強くなってきているとは思いますが野球のおかげだと思っています。今のところですが親ばか目線で野球の素質はあるんじゃないかなあと思っていてこのまま成長し高いレベルで野球を続けてもらいたいです。

娘は、私と同じ投手をやっていて先週も女子野球の北海道選抜選手として岡山県で行われた道外大会に出場し、5回目の出場で北海道勢としては、初優勝しました。

来年から中学生になりますが今回の経験があったからか野球を続けたいと今のところ言っているので今後が楽しみです。

子供たちに野球を教えているなかで伝えていきたいことがあります。それは、行動の基準は正しいと思うことをしなさいということです。来年より大リーグロサンゼルスエンゼルスに移籍する大谷翔平選手が母校、花巻東高校の佐々木監督から教えられその後の行動についても実践しているとのこと。正しいかどうか常に考え行動できる大人になってほしいと思います。

仕事でも正しい電話対応、正しい言動、正しい仕事の進め方など通常業務の中でこれは正しい行動であるか考えながら業務に励んでいきたいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいたく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。